

令和7年度 新宿区地域公共交通会議（第3回）

議事概要

- 開催日時 : 令和8年2月12日（木）15:30-16:00
- 開催場所 : 新宿ファーストウエスト 3階 AB会議室
- 欠席者 : 3名（委員2名、オブザーバー1名）

1 開会

本日の出席状況について、出席対象委員は21名中19名が出席、2名が欠席であることを報告するとともに、委員の半数以上が出席していることから、開催要件を満たしている旨を報告し、更に、配布資料の確認、発言時のお願いを説明した。

2 報告

令和7年度分科会（第1回）、令和7年度協議運賃分科会（第1回）での協議結果について（報告）事務局が資料1に沿って説明を行った。（質問等なし）

3 議題

令和7年度分科会（第1回）、令和7年度協議運賃分科会（第1回）での協議結果を受け、令和7年度交通会議（第3回）に諮る事項について

事務局が資料2-1から2-7に沿って説明を行った。

● 質疑1

2回目のAIオンデマンドの実証運行ということだが、バスの運転手の乗務員不足というところで、極力現場のバスの運転手の負担にならないような取り組みを行っていただきたい。

一点目として、定時定路線とは違い、道路工事の情報が入りづらいということは一定理解をするが、前回運行の際にもシステムに反映されない工事があり、狭隘路に進入して大きな迂回を強いられ、事故の危険性や利用者にも不便をかけるような事態があった。そのため、道路管理者や警察、交通事業者と区の三者で連携して情報共有をし、事前に交通規制の状況を把握したうえで、交通事業者においては点呼の際に伝えるなど対応していただきたい。

もう一点は、これまでの議論の中で、区としては地元を走っているタクシー会社やバス事業者を大切にするとされていたが、その考えは今後も変わらないのか。デマンド交通に関しての他の動向を聞くにタクシー会社やバス会社への影響が出てくるかと思うので、事務局の考えを聞かせていただきたい。

● 事務局応答1

1点目について、システムへの工事の反映は難しいと認識している。区も道路管理者であるため、都、区を含めて、把握できるものについては情報提供できるようにしたい。ただし、緊急の工事など反映できないものはご了承いただきたい。お客様に迷惑がかからないようにという思いは同じであるため、情報提供をできる限りしたい。

2点目のAIオンデマンドの動きについて、私どもも都内に限らず、様々な情報を取得するようにしている。今後色々な会議体を通じて情報が入るかと思うため、注視しつつ、色々な動きに対してバスやタクシーが影響を受けるのか否か見極めていきたい。

● 質疑2

区内には見えない方や、耳が聞こえない方、車椅子の方、知的障害者の方、若年性認知症の方など、様々な障害者の方がいる中で、利用対象者については事前利用を行い、かつ一人で乗降可能とされているため、車椅子の人は想定されていないが、それは致し方ないと思っている。一方で、一人で乗降が可能なのは、障害の軽い方に限られてくるが、そういった方は日中帯に作業所へ行かれたり、一般就労をされていたりするため、運行時間が17時で終了

となると使えないこととなる。実証運行のため運行時間が短いのかと思うが、利用者や対象者を絞るのであれば、運行時間を広げていただかないと使いづらいと感じたため、是非とも検討いただきたい。

● 事務局応答 2

今回の実証運行で使う車両や従事する運転手、また時間帯など様々なことを考え、会議の中で決めてきたという経緯がある。実証運行終了後に分析をしていくこととなるが、例えば車椅子での利用、時間帯の拡大というのは、検討していかなければならないと考えている。実証運行では、この時間帯かつ一人で乗車可能ということがベースとなっているが、障害をお持ちの方が乗れないわけではなく、福祉的な観点でも議論していく。一方、交通の観点だけではなく、区の福祉部とも連携しながら色々な手段のあり方を考えていきたいと思っている。今回は実証運行ということでご理解いただきたい。

● オブザーバー

本当に申し訳ないが、人員不足がかなり深刻なところもあり、これ以上の時間帯を運行するとすると、2人ないし3人の人員が必要となるため、今回は1人で運行できる範囲とさせていただいた。今後人員がどんどん増えるということはあるかもしれないが、万が一、何か貢献ができるものがあれば、相談させていただきたい。本計画は実証運行ということもあり、関連するバス、タクシー会社様に色々なご理解、ご協力をいただいている中で運行させていただいている。ただ、今回の実証運行が終わった後に、仮に別の事業者が実施する場合には、同じ運行区域で、同じように実施するというのではなく、できれば1回リセットし、乗降場所などについて協議をしてもらいたい。

● 質疑 3

前回の結果では、単純に言えば赤字であり、事業として成立していないため利益は得られない。今回、運賃を下けているが、運行区域や乗降場所を増やすなどの努力により、どれだけ収益が上がるか、収支バランスになるかについて、想定されているものがあれば、お聞かせいただきたい。

● 事務局応答 3

前回の運行では利用者からの運賃に関する要望は大きかった。また、利用者数については、前回も色々ホームページをはじめとした周知は行ったものの、結果としては認知度が低かった。今回は運行前と運行中に落合地域の約5万世帯にパンフレットの全戸配布を区で行う。

収支については、これまでの会議の中でも、1時間あたり30人以上乗らないと損益分岐点に到達しないということは、議論させていただいた。その数値自体の見立ては同じだが、今回の6か月の中で皆さまに認知していただき、運賃の値下げや乗降場所の増設により、どれだけ乗車人数が増えるのかが、実証運行の最後の正念場だと思っている。これまで、パーソントリップ調査の潜在的需要など論理的な数値はあるが、2回目の実証運行で増えないとなると、設定や運行の仕方含めて、何が原因であるかを分析し、結果を皆様に共有しないといけないと思っている。まずは、周知を重ねて多くの方に乗っていただき、損益分岐点に近づけていく。他のAIオンデマンドの実証運行の状況を見ると、2年や3年ぐらいかけて、損益分岐点へ近づけていくところもあるが、6か月という中では短期間で集中して、利用促進を図り、損益分岐点を一つの目安として考えて参りたい。

● 意見 4

新たなビジネスチャンスとして実証運行を実施し、それが成立していくのかどうか。最終的な事業としての収支を今後明確に見せていただきたい。単に車の費用や人件費だけではなく、仮に事業を始めるのであれば、区が負担した周知費用もコストに含まれるので、全体での支出と収入を見たい。仮に成立するのであれば、既存交通事業者の商売敵となり、片方が儲ければ、片方は減る。現状のままで複数の事業者や運送手段に分かれるということは、既存交通事業者にそれなりの影響がある。仮に既存交通に影響なく事業として成立すれば、新しい交通手段ができてよくなったとなる。そのため、検証方法が必要だと認識している。

● 会長

議決の方法は、地域公共交通会議設置要綱第5条第7項に基づき、全会一致を原則とします。議論を尽くしても全会一致に至らない時は、会長の提示する議決方法によることとなります。

まず、AIオンデマンド交通の2回目実証運行に係る運行計画案に賛成の方は挙手をお願いいたします。全員の賛成をいただきましたので、了承されたものといたします。

次に、新宿区内の乗合自動車の停留所における旅客の運送の用に供する自動車の停車又は駐車に関する合意書の発行に賛成の方は挙手をお願いいたします。対象となる委員全員の賛成をいただきましたので、了承されたものといたします。

最後に、道路運送法に基づく協議が調っていることの証明書の発行に賛成の方は挙手をお願いいたします。全員の賛成をいただきましたので、了承されたものといたします。

なお、証明書について、軽微な文言の変更・修正等は、私に一任させていただければと思います。

4 その他

大久保通りにおける道路規制の社会実験の実施による一部車両通行止めについて

事務局が資料3に沿って説明を行った。（質問等なし）

● 会長

一つ、提案、発言をさせていただきたい。今回、AIオンデマンドの実証運行について議決をいただいたところだが、今まで個別に不便地域の移動手段の確保ということで、AIオンデマンドの提案があり、議論をして、実証運行という形になったが、こういうものは全体の計画を立てて、計画に基づいて実験を行うという流れの方が非常にスムーズである。どのような検証を行うかも、計画に位置づけられていれば、その計画に基づいて検証するということができる。今のところ新宿区には地域公共交通計画に相当するような計画がないので、できれば今後、策定し、その中で実証実験等を進めていただいた方がよろしいかなと考えている。新宿区の場合、他のところを参考にできるようなものはなく、かなり独自の計画を立てざるを得ない部分がある。当然、非常に多数の来街者があり、人の行き来も非常に多く、一見すると交通の利便性も高いところで、どのように計画を作っていくのかということは、色々検討しなければいけないことだろうと思う。利便性が高く見える中で、今回のように実は地元の生活にとっては、それなりに不便な面もあり、何らかの対応をしていかなければならない地域も存在する。一方で、来街者にとっても、例えば今の新宿駅の状況などを見ても、頻繁に動線が変わって、そのインフォメーションが行き届いていないなど、交通がスムーズにいかない面もある。そのような課題を一度洗い出して、それを区として計画に結びつけていくことは必要である。策定に向けて、ご検討いただければと思いご提案をさせていただいた。

5 閉会